

# のぞみふくいニューズレター



第30号 (H22. 10月)

(財) がんの子供を守る会 福井支部 発行

TEL・FAX 0776-22-5132

Email nozomi-f@mx3.fctv.ne.jp

本部 URL <http://www.ccaj-found.or.jp/>

支部URL <http://www3.fctv.ne.jp/~nozomi-f/>

10月に入り雨の日が多いですが、みなさまお元気でご活躍のこと、お喜び申し上げます。

ようやく、秋らしい季節になりました。山の紅葉も進んでいるようです。

スポーツの秋、文化の秋、そして食べ物もおいしい秋。私の一番好きな季節です。(文責：代表幹事)



## 第10回中部小児がんトータルケア研究会 名古屋医療センターにて

今回は10周年記念で、今までの研究会を振り返りました。10年間の参加者の背景として、東海・北陸・甲信越の医師・看護師が一番多く、教師、支援者、学生と続き、最近では、保育士、CLSという職種も増えています。平均100名の参加が毎回ありました。

**聖路加国際病院の細谷亮太先生の基調講演「小児がんのトータルケア私の40年」** 1960年日本で最初にトータルケアを紹介した、西村昂三先生を師に持つ細谷先生は、アメリカから帰国後、聖路加国際病院に就職され、昭和43年、がんの子供を守る会設立と同時に、小児病棟において、小児の患者にトータルケアを実践された方です。それから40年たった今、トータルケアは様々な専門家が参集し、チームになって、メンバーそれぞれがお互いの立場をよく理解し、その職種を尊重しながら、チームワーク良く働いてこそ、トータルケアの望ましい形を追求できるということです。

今回の発表は、主に病院の看護師さん、CLSのようにスタッフさんの発表です。**入院中の食事**に関する調査、食事支援、という、前回までにはなかった、病院に入院していても大切な食事に関しての調査、発表がありました。その他、**患児のきょうだい**に関して、**小児ドナー候補者への介入**、**緩和ケア(ターミナルケア全般)**に関して、**在宅でのターミナルケア(最期の看取りまでのケア)**、**予後の患児への告知**、**患児の仲間の死への対応**、**家族に対するグリーフケア**、といった、10年前とは進んだ内容の研究会でした。当事者の私にとって、看護師さんたちの発表の内容には、すばらしいと思うものもありますが、納得がいかない内容もあります。そこまで介入が必要なのかという疑問もあります。でも、全ての発表は、患者さんの立場にたって考える、トータルケアの下にあると思います。

福井では、残念ながら、ここまで、他県のようにトータルケアに関して進んでいないと感じるのは、私だけでしょうか。

**教育支援復学に対するシンポジウム**では、小児がん患者がスムーズに復学するには、学校の現役の教師、児童生徒へどれだけ意識啓発するかが課題。病棟と学校の連携の大切さ。マスコミの影響が大きく、間違った情報が伝わっていることがある。ということがあげられた。長期入院児にとって、学籍移動がネックになっている。病期が短い入院児に対しては、学籍移動しない教育制度の提案が必要。自治体によって違うが、教育委員会に訴えればうまくいく場合がある。ということです。

教育先進権の福井県。特別支援教育の面でも、障害児だけでなく、病弱児、入院児の教育に関しても先進してもらいたいと思います。

来年平成23年は、10月1日(土)、名古屋市栄のガスホールにて行われます。幹事は新潟県です。

## 年内今後の予定

12月5日(土) ピアカウンセリング交流会 坂井地区 時間場所詳細未定

12月17日(金)～19日(日) 小児がん学会 大阪国際会議場

12月24日(金) 福井大学医学部附属病院小児病棟 クリスマス会